

課題抽出項目＜独自評価項目＞

～内容評価項目について、次への取り組みを事業所が検討した結果です～

事業所名： 丹沢レジデンシャルホーム

内容評価項目の＜A5:利用者の意思を尊重する支援としての相談等を適切に行っている＞を取り上げ、今後の具体的な取り組みを検討した結果です。

事業所による取り組み

内容評価項目＜A5:利用者の意思を尊重する支援としての相談等を適切に行っている＞	自己評価の内容	<p>＜現在の状況＞</p> <ul style="list-style-type: none">• 日常の介助場面や、個別支援の時間の中で、意向を聞きだし、その情報や内容を必要に応じて棟役職者、サービス管理責任者と共有している。その思いや、体験した内容などを踏まえて継続的に意向を確認し、フェルトニーズだけでなく、よりリアルニーズに近づけるように支援している。• また、自らの意思を言語で表現することが難しい方については、特に体験することを大切に、様々な物事に触れられるように検討しているが、実際の支援において施設外のサービスを活用することも難しく、外のサービスの少なさにも限界はあると考えている。• 少なくとも毎月1回は必ずニーズにおける状況、意向を確認する面接場面を設けており、支援や関わりにおいても意思決定に繋がるように工夫しているが、人員不足の問題、直接介助・支援の時間の都合上、面接機会やそのための時間を業務中に確保することは難しい状況にある。
--	---------	--

	<p>自己評価で気づいたことについての今後の具体的な取り組み</p>	<p><今後の具体的な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> • 現状の地域の社会資源やサービス利用では限界があることについては、より広範囲で検索することも一つだと考える。そういった場面では、担当相談員も交えながら、意思決定支援場面（会議）の一つとなるように行う。また、現在の施設内でのサービス提供（日中活動やイベント、外出、行事等）を見直し、新たに創作することも一つだと考える。 • 本人の情報・生活状況・機能や能力など、本人像を具体的に且つ一つに集約することで理解・把握がしやすいこと、作成における事務的な負担軽減につながることを目的に、既存の書式を融合・修正等することも対応の一つと考える。 • 利用者の話を聞く時間の確保につなげるため、業務の簡略化や職員数増加などは以前から様々な場面で話に上がっており、ICTの導入、起床・就寝・入浴・食事などそれぞれの場面での介助内容とサービス提供内容を、継続的に見直して改善に努めている。これについては、今後も状況や体制の変化に合わせて検討・調整していく必要があるため、継続的に行動する。 • 現在、入職2年目の職員から担当ケースを持ち、個別支援計画などその方のライフサポート関連書式を作成している。経験年数の浅い内から個別支援やその事務について触れる機会があることは当施設のストレングスである一方、現在の職員数と業務量、事務時間が確保されにくい環境など様々な状況を含めて考えると、若手職員が事務時間で最も時間を要する個別支援計画・モニタリングの作成（修正）などを、例えば役職者やそれに準ずる職員が担い、その作成のための事務時間を優先的に取得してもらう。その間、現場は若手職員などの作成を担わない職員が率先して対応する形も案の一つとして考えたい。作成における全てを行わなくなると、事業所として職員育成機能・能力の低下につながるため、日々のアセスメント、記録、個別支援計画作成のための面接や土台作りなど、分散させるところ、継続して行うことを見極めながら考えることでバランスを調整していくことも一案として検討したいと考えている。
--	------------------------------------	--

<p><第三者評価コメント></p> <p><利用者の意思を尊重する支援としての相談等を適切に行っている>の項目を取り上げ、次の計画を話し合い、今後の具体的な取り組みを決めている。取り組みの成果に期待する。</p>
